

授業科目		対象学科・専攻	年次	期別
相談援助 Social Work		児童教育学科 幼児教育学専攻	2年次	前期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	
演習	1	選択	今川 晋平	
概要				
相談援助において必要な方法や技術を理解し、援助者としての自己への理解を深め、保育現場において相談援助の理論や方法を活用できる技術を身につけることをねらいとし、相談援助の理論や意義、方法とその具体的展開について演習を交えながら解説する。				
到達目標				
(1) 相談援助の意義、機能、対象を説明することができる。 (2) 相談援助の方法や技術を説明することができる。 (3) 相談援助の必要性と活用できる技術を習得し、課題解決に向けて自分の意見を述べるができる。				
授業内容とすすめ方				
1 相談援助とは何か　－オリエンテーション－ 2 なぜ相談援助は必要か　－相談援助の意義－ 3 相談援助の機能 4 相談援助の対象 5 相談援助における面接技術 6 事例から学ぶ相談援助の援助過程①　－援助開始の留意点－ 7 事例から学ぶ相談援助の援助過程②　－面接場面の留意点－ 8 事例から学ぶ相談援助の援助過程③　－面接場面演習－ 9 事例から学ぶ相談援助の援助過程④　－アセスメントを学ぶ－ 10 事例から学ぶ相談援助の援助過程⑤　－アセスメントを行う－ 11 事例から学ぶ相談援助の援助過程⑥　－援助計画を学ぶ－ 12 事例から学ぶ相談援助の援助過程⑦　－援助計画を考える－ 13 事例から学ぶ相談援助の援助過程⑧　－援助実施・評価・終結－ 14 相談援助における関係機関との協働、多様な専門職との連携 15 相談援助における社会資源の活用や調整、開発				
テキストおよび 参 考 文 献	笠師千恵・小橋明子 著「相談援助・保育相談支援」中山書店			
メ ッ セ ー ジ な	毎回、テキストを持参すること。そして、資料を配布予定であるので、資料を保管するためのクリアファイル等を用意することが望ましい。 保育士証：必修科目			

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 相談援助の意義、機能、対象を説明することができる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いはないが基本的な説明をすることが可能である。	最低限度の説明はできる	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	40%
(2) 相談援助の方法や技術を説明することができる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いはないが基本的な説明をすることが可能である。	最低限度の説明はできる	説明できていない。		30%
(3) 相談援助の必要性和活用できる技術を習得し、課題解決に向けて自分の意見を述べることができる。	相談援助の必要性和課題解決に向けて、ほぼ完璧に自分の意見を述べることができる。	相談援助の現状と課題に対し基本的な説明をすることが可能で、そのうえで自分の意見を述べることができる。	相談援助の現状と課題に対し若干の認識の間違えがあるが、そのうえで最低限度の自分の意見を述べることができる。	自分の考えを述べていない。	課題レポート (関心・判断・思考・把握)	30%